

夏合宿ケースメソッド紹介

最後のプレミアムビール戦争

2014年9月現在、麒麟ビールは、プレミアムビールとして、「グランド麒麟」をコンビニエンスストア限定で、「一番搾りプレミアム」をギフト専用で、それぞれ販売している。上記2製品の販売経路は現時点では限定されているため、麒麟ビールは、まだ、プレミアムビール市場に本格参入してはいないと見なすことができる。しかし、麒麟ビールが、新発売の「グランド麒麟」シリーズに加えて、「一番搾りプレミアム」という同社の主力ブランドである「一番搾り」を冠した製品を発売したのは、大きな転換点であり、注目に値する。そして、今後の麒麟ビールの戦略が、新たな、そして最後ともなり得るプレミアムビール戦争の重要な鍵となると考えられる。既存製品への影響、競合他社との関係、および、小売業者への影響を考慮し、麒麟ビールが、プレミアムビール市場において、今後いかなる戦略を採用していくべきかを判断することが本ケースの焦点である。

解題者紹介

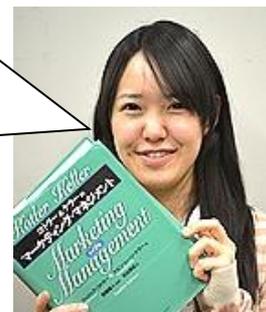


振り返ってみれば、夏休み中は本当に仲間に助けられました。僕がサークルの夏合宿で忙殺されていた頃、国内組の山田・佐藤・内藤が先生とのやり取りや修正を一手に引き受けてくれ、海外組が時差など存在しないかのように、イギリスから西本が、タイから長澤が彼らをサポートする。日本、イギリス、タイを夏ケースのデータがリアルタイムで行き来するという、なんと時代は進んだのかと感ずることもできました。そんな皆のおかげで、夏合宿初日には間に合わなかったものの、なんとか夏合宿中に解題することができました。なにより、大学生活最後の夏休みに、決して忘れることのできない思い出が作れました。夏ケースやってよかったと思っています。本当です。

立松 宗磨

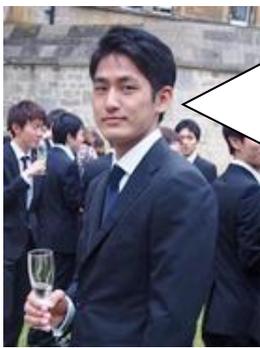
夏ケース執筆中のことは、なるべくならば思い出したくない。それくらい、肉体的にも精神的にも辛かったからだ。小野ゼミでは過去に、ビール業界をテーマにして幾度もケースを行ってきたが、本夏ケースはその最高傑作であると先生に評して頂き、本当に嬉しかった。昨年の夏ケースも、過去最高の傑作と言われており、それに見合う物ができるか不安であったが、なんとかその水準に達したようだ。来年の、12期生の夏ケースにも期待である。とにかく、夏ケースメンバーの皆、お疲れ！

山田 彩華



夏ケース資料が完成した時、何ともいえない達成感がありました！ ビールに関する資料として、過去のケースの中でも完成度が高いケース資料ができたと思います。未来の後輩がビールに関するケースを解題する時、必ずこの資料を参考資料として載せるでしょう 笑。夏合宿出発日の前日に立松家で徹夜をしている時、3年生時に比べて眠気もなく、文章をスラスラ修正している自分がいました。今振り返ると、そんな風に成長できたのも、小野先生の熱い指導の賜物です。ありがとうございました。最後に後輩に一言。夏の思い出に、夏ケースはいかが？

佐藤 和也

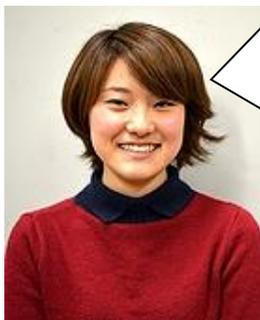


テーマ設定における困難、資料収集における困難、執筆における困難。文字にしてしまえば簡単であるが、これらの困難を乗り越えることは、決して容易なことではなかった。それぞれの困難に直面する際に、感じるのは、自らの様々な能力の不足であった。さらに、解題も大詰めを迎える夏休み、私は英国に留学した。英国の国境審査を通過する際に、自分の執筆範囲が大幅な修正を要すると連絡を受け、自分は英語も日本語もできないのかと感じたのを忘れない。しかし、優秀な仲間を支えられ、それらの困難を乗り越えて完成した解題資料が、12期生の能力向上に少しでも結び付いたならば、この上ない幸せである。

西本 真志

夏ケース解題というあまりに高いハードルを飛び越えた瞬間、三田論を書き終えたときと同じような感慨深さを感じた。それほどまでに、夏ケースを解題するまでの道りは険しく、様々な困難に直面したからである。思うように文章が書けなかったり、深夜にもかかわらず先生のご自宅まで走って原稿を取りに行ったり、解題が予定通りに行えなかったり。しかし、様々な困難に直面し、その困難を仲間と一緒に乗り越えたからこそ、成長できたし、感動できたのだろうと思う。長澤、西本、佐藤和也、立松、山田、ありがとうございました。

内藤 節



夏ケースの解題。4年生の行事の中で、私が絶対にやらないと決めていたことだ。その理由は、私が3年生の時の光景にある。第10期夏ケース解題チームは、第11期三田論チームと同じくらいの頻度でグル学に来ていた。もちろん、他の第10期生はほとんど学校に行かずに最後の夏休みを楽しんでいるのに。4年生の夏休みもグル学に来るだけで終わるのはいや！ と思って、夏ケース解題チームに入ることを拒んでいたが、立松君に半強制的に入れられて解題することになった。結果的に、メンバーに迷惑をかけたが、大好きな旅行にも行き、私の仕事量は少なかったと思うが、無事解題もすることができた。なんだかんだ実質卒論だけ、という孤独な4年生より、大好きな同期とぶーぶー言いながらも1つのものをつくることができ、幸せであった。

長澤 由美子